



Ministry of External Relations
Department of Trade and Investment Promotion



駐日ブラジル大使館
EMBAIXADA DO BRASIL EM TÓQUIO

〒107-8633 東京都港区北青山 2-11-12
Tel: 03 (3404) 5211 (代表) Fax: 03 (3405) 5846 (代表)
www.brasemb.or.jp

Brasil



ブラジル政府



Sensacional!



Comunicação e Marketing no Mundo

Designed by
+31 PLUS
CREATIVES



<旅の基本情報>

- 正式国名
- 首都
- 人口
- 国土面積
- 公用語
- 宗教
- 通貨
- 日本との時差

ブラジル連邦共和国
ブラジリア
約1億9千4百万人
851万平方キロ(日本の22.5倍)
ポルトガル語
主にカトリック教
レアル(R\$)
ー12時間=ブラジリア、サン・パウロ、リオ・デ・ジャネイロ、オウロ・プレット、
レシフェ、ポルト・アレグレ、フォス・ド・イグアスなど
ー13時間=マナウス、ボア・ヴィスタ、クイアバなど
ー14時間=リオ・ブランコ
※サマータイム制度を採用している一部の州はー11時間
(実施期間は10月～3月。年によって変動あり)

- 気候
- 電圧

主に亜熱帯
リオ・デ・ジャネイロ、サン・パウロ 110-220V/60Hz、
マナウス 127V/60Hz、 レシフェ、ブラジリア 220V/60Hz

- ビザ

目的にかかわらずビザが必要。観光目的の場合は滞在許可日数は90日間。残存有効
期間6ヶ月以上のパスポート、写真、往復航空券(予約確認証)、貯金残高証明書、
住民票を用意して在日ブラジル総領事館へ申請する(変更の可能性あり)

- 日本からのアクセス
- 祝祭日

北米をはじめ、ヨーロッパ、中東などを経由で、乗り継ぎ時間により23～30時間
1月1日 元旦
2月、3月 カーニバル
3月、4月 聖金曜日(イースター直前の金曜日)、イースター
4月21日 チラデンテス記念日(ブラジル独立運動の志士)
5月1日 メーデー
6月 聖体祭(イースターから60日)
9月7日 独立記念日
10月12日 聖母マリア・アパレシード祭
11月2日 精霊祭
11月15日 共和制宣言記念日
12月25日 クリスマス

<問い合わせ先>

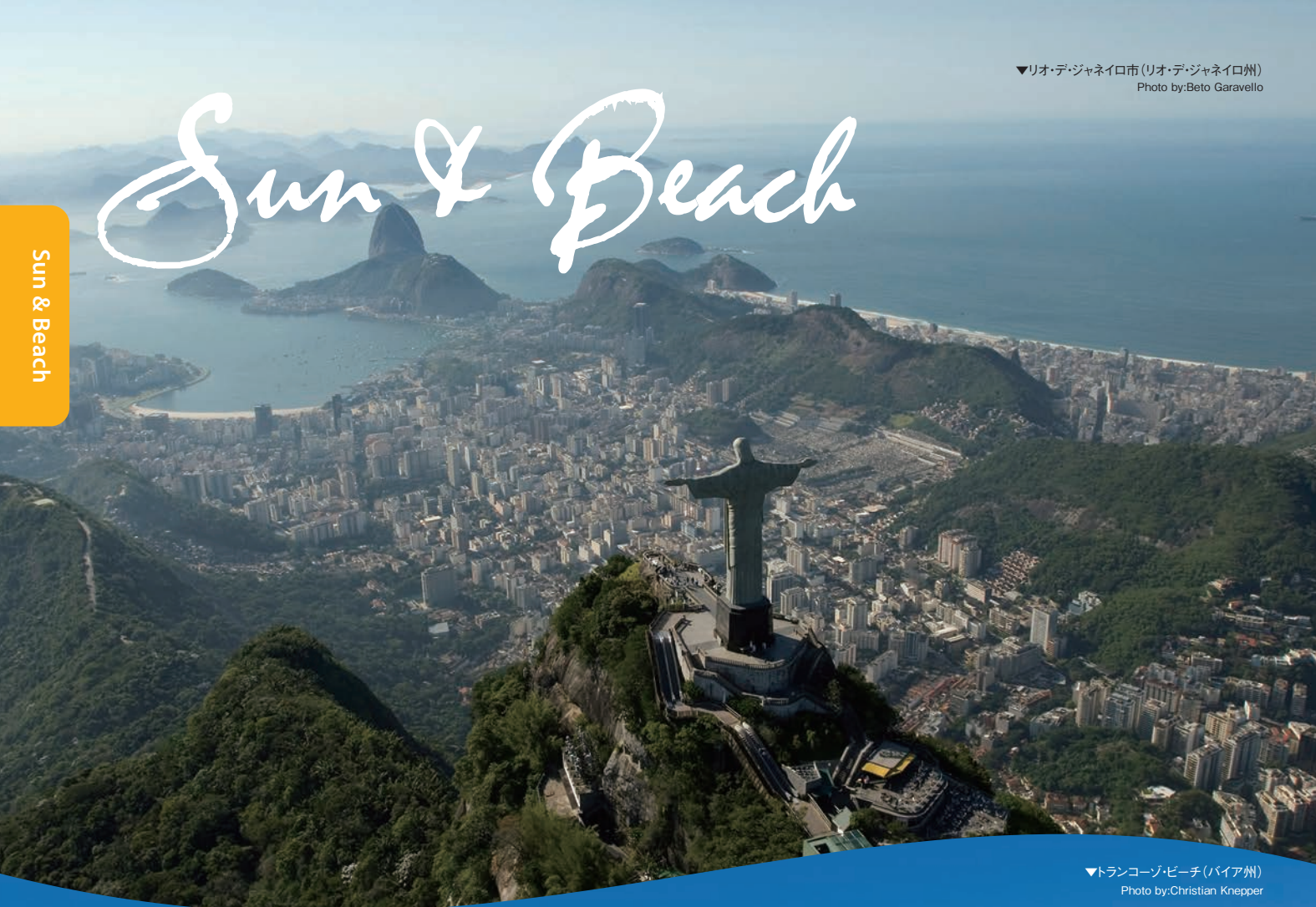
- 駐日ブラジル大使館 通商部 〒107-8633 東京都港区北青山2-11-12
Tel:03(3405)6838 Fax:03(3746)0756 <http://www.brasemb.or.jp>
- ブラジル観光省 観光省 観光公社 <http://www.turismo.gov.br>
<http://www.braziltour.com>
- メルコスール観光局 <http://www.mercosur.jp/>

<ビザ申し込み>

- 在東京ブラジル総領事館 <http://www.consbrasil.org>
- 在名古屋ブラジル総領事館 <http://www.consuladonagoya.org>
- 在浜松ブラジル総領事館 <http://www.consbrashamamatsu.jp>

Sun & Beach

▼リオ・デ・ジャネイロ市(リオ・デ・ジャネイロ州)
Photo by:Beto Garavello



▼トランコーゾ・ビーチ(バイア州)
Photo by:Christian Knepper



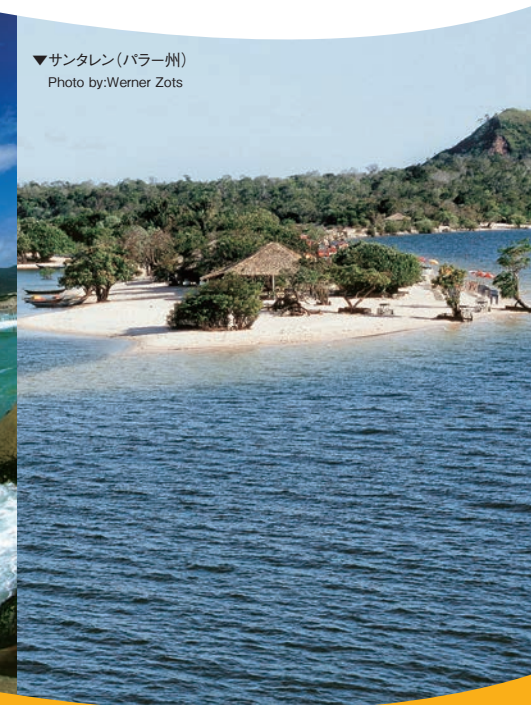
▼ラテンアメリカ最大のアクアパーク(セアラ州)
Photo by:Christian Knepper



▼マセイオ(アラゴアス州)
Photo by:Christian Knepper



▼サンタレン(パラ州)
Photo by:Werner Zots



▲カノア・ケブラダ(セアラ州)
Photo by:Christian Knepper



▲ジョアキーナ・ビーチ(サンタ・カタリーナ州)
Photo by:Christian Knepper



ブラジルのリゾートは、世界でも有数の美しい風景に囲まれています。なかでも海岸部は楽園とも言えるほどの美しさで、訪れた観光客は一生忘れない体験を味わうことができるでしょう。各リゾート地のスタッフは、ブラジル人の心の中に生きる最も大切な伝統「温かいもてなしの心」で、迎えてくれます。子供から、若者、大人まで、全世代が楽しめる豊富なオプションツアーや24時間をフルに活用できるレジャー・メニューを取り揃えています。美しい海岸、緑豊かな草原、雄大な山地で、自然と直接ふれあい楽しむことができるのはもちろん、

各リゾートでは、一流の宿泊施設で料理に舌鼓を打ち、美しいビーチやプール、エステなど、充実した設備でリラックスすることができます。他にもウォーキング、ウォータースポーツ、テニスコート、ゴルフ、遊覧船、サイクリング、乗馬、ハングライダー、砂丘用バギー Jeep、フィッシング、ダイビングなど数多くのアクティビティが用意されています。リゾート地はブラジル海岸部に集中していますが、アマゾンの熱帯雨林の奥地にも素晴らしいリゾート地があることもブラジルならではの特徴です。



Ecotourism

Ecotourism



▲アマゾン川沿いのジャングル・ホテル(アマゾン州)
Photo by:AMAZONASTUR/Ribamar o Caboclo

エコツアー

▲ヴェウ・ダ・ノイヴァ滝(マト・グロソ州)
Photo by:Editora Peixes

▼レンソイス・マラニョENSES国立公園の砂丘脈
(マラニョENSE州)
Photo by:Divulgação



▲アマゾン川の合流地点(アマゾン州)
Photo by:AMAZONASTUR/Ribamar o Caboclo



▼ボニート(マト・グロソド・スール州)
Photo by:Editora Peixes

▼マラジョ島(パラ州)
Photo by:Christian Knepper



今日、「自然にふれあう」エコ・ツーリズムに多くの人が興味を持っています。ブラジルのエコ・ツアーは、テレビや写真を見て想い憧れていた、美しく雄大な自然の風景を自分の目で確かめられる、またとない機会です。広大なブラジルの自然環境は、まさに地球そのもので、多様多彩な自然のサイクルと生物の生態系を見ることができる宝庫です。ブラジルには5つの地域(北部、南部、北東部、南東部、中西部)に95カ所のエコ・スポットがあります。そこでは、自然を楽しむ以外にも、地域特有の「エコ・スポーツ」にも参加できます。ブラジルは、まさに地球の恩恵を享受できるエコ・ツアーの国なのです。

EMBRATUR IMAGE BANK



▼マギネ鍾乳洞(ミナス・ジェライス州)
Photo by:Editora Peixes

World Heritage

■世界文化遺産



[世界遺産]

世界遺産とは、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が公認した、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて、世界遺産リストに登録された遺跡や景観そして自然など、人類が共有すべき「顕著で普遍的価値」をもつものを指します。世界遺産リストに、ブラジル国内19箇所の地域が登録されています。

[世界文化遺産地域]—ブラジリア、サルヴァドール・デ・バイア歴史地区、サン・ルイス歴史地区、ディアマンティーナ歴史地区、ゴイアス歴史地区、オリンダ歴史地区、古都オウロ・プレット、ボン・ジェズ・ド・コンゴニャス聖所、グアラニーのイエズス会伝道施設群:サン・ミゲル・ダス・ミソンイス遺跡、カピバラ山地国立公園、サン・クリストヴァン町のサン・フランシスコ広場、リオ・デ・ジャネイロ:山と海に挟まれたカリオカの景観

[世界自然遺産地域]—イグアス国立公園、ディスカヴァリー・コースト大西洋岸森林保護区群、サウス・イースト大西洋岸森林保護区群、中央アマゾン保全地域群、パンタナル保全地域、ブラジルの大西洋諸島:フェルナンド・デ・ノローニャとロカス環礁保護区群、セラード保護地域群:ヴェアディロス平原国立公園とエマス国立公園

ブラジリア

(連邦直轄地区—1987年文化遺産)

1956年に、ブラジリアが国土のほぼ中央に全てゼロから建設されたことは、都市計画の歴史にとっても画期的な出来事といえます。都市計画専門家ルシオ・コスタと建築家オスカー・ニーマイヤーは、全ての都市要素を都市全体と調和させる事にしました。連邦行政の公共建物は特に革新的で、創造力にあふれた建築物です。



▲国会議事堂(ブラジリア) Photo by:+81

サルヴァドール・デ・バイア歴史地区

(バイア州—1985年文化遺産)

1549～1763年の期間、ブラジルの最初の首都となったバイア州のサルヴァドールは、ヨーロッパ、アフリカと先住民の混合文化が花開いた場所です。多くのルネサンス様式の建物は、現在まで、そのまま保存されてきました。この歴史地区の特徴として、建物がカラフルであることと、スタッコ(漆喰細工)風の飾りつけがあげられます。

オリンダ歴史地区

(ペルナンブッコ州—1982年文化遺産)

16世紀にポルトガル人により建設されたこの町の歴史は、サトウキビの歴史と重なります。オランダ人に略奪された後に再建されたオリンダの町並みは18世紀当時のまま保存されています。建物、庭園、20を超えるバロック様式教会、修道院や多くの礼拝堂などは、互いに調和して、オリンダをより魅力的な町に仕立てあげています。

ボン・ジェズ・ド・コンゴニャスの聖所

(ミナス・ジェライス州—1985年文化遺産)

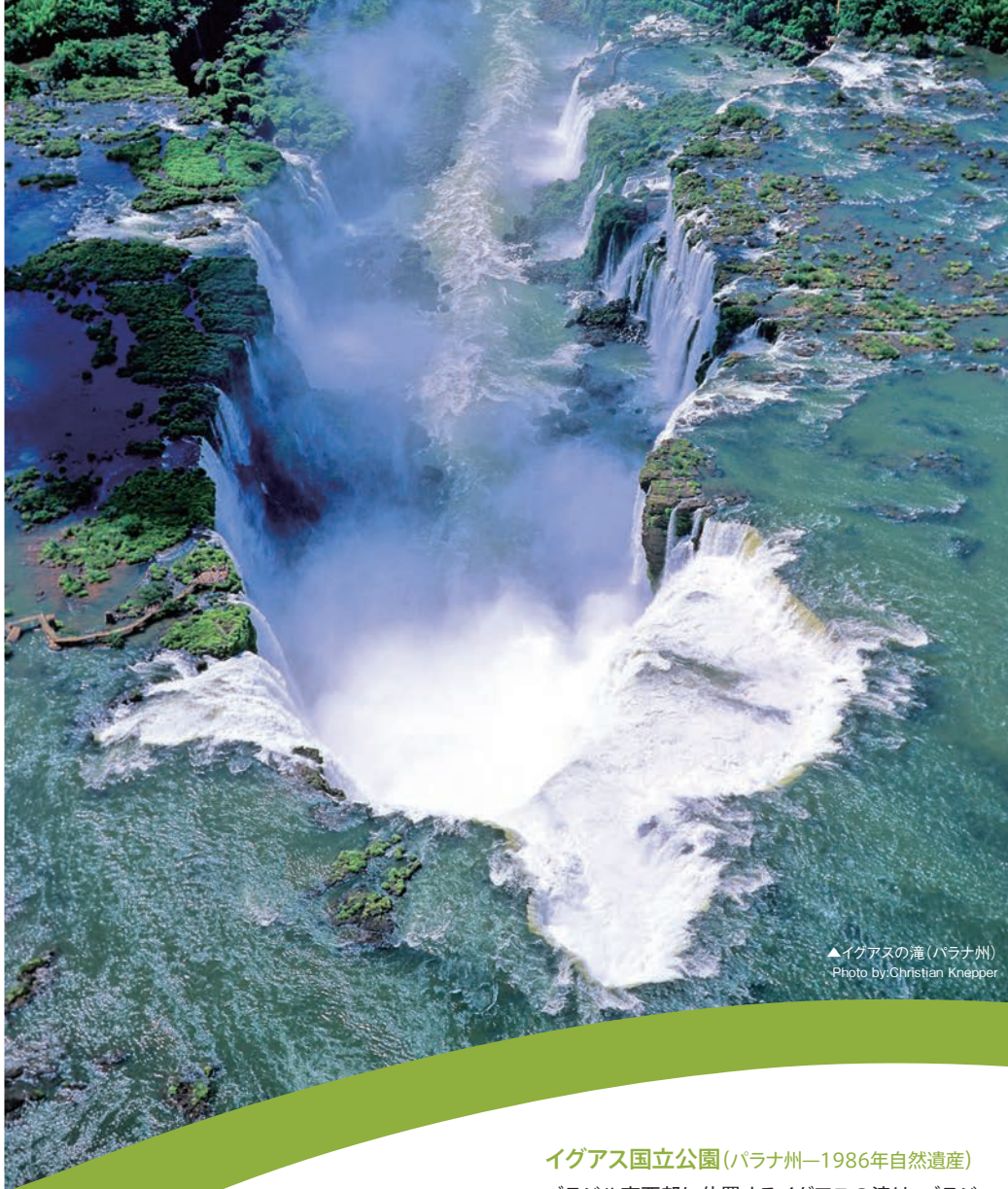
ミナス・ジェライス州の州都ベロ・オリゾンテの南部に位置するこの聖所は18世紀後半に建てられました。この聖所は、イタリア風の華麗なロココ様式の内装の教会とキリストの受難を表す七つの礼拝堂により構成されています。礼拝堂には彫刻家アレイジャジーニョの名作である多彩な彫刻が置かれており、ブラジルのバロック芸術を象徴する代表的作品となっています。

カピバラ山地国立公園

(ピアウー州—1991年文化遺産)

カピバラ山地国立公園の岩山に見かける多くの洞窟内には、2万5千年前にまで遡る洞窟壁画が存在しています。これらの壁画は、南米最古の集落跡と考えられています。

EMBRATUR IMAGE BANK



▲イグアスの滝(パラナ州)
Photo by:Christian Knapper

イグアス国立公園(パラナ州—1986年自然遺産)

ブラジル南西部に位置するイグアスの滝は、ブラジル先住民グアラニー族の言葉で、「大いなる水」という意味。平均落差60mの滝が275本集まる絶景の地であるとともに、水量だけでなく、世界で最も美しい環境保護区のひとつです。

パンタナル保全地域(マット・グロッソ州 & マット・グロッソ・ド・スール州—2000年自然遺産)

ブラジル中西部に位置し、世界最大の大湿地帯にして、哺乳類、爬虫類、魚類、鳥類の宝庫として世界屈指の生態系を見ることができます。

EMBRATUR IMAGE BANK

■世界自然遺産



▲ブラジルの大西洋諸島:フェルナンド・デ・ノローニャ(ペルナンブッコ州)
Photo by:Antônio Melcop



▼パンタナル保全地域(マット・グロッソ・ド・スール州)
Photo by:Divulgação

フェルナンド・デ・ノローニャと

ロカス環礁保護区群

(ペルナンブッコ州—2001年自然遺産)

ブラジル北東部地域。大西洋の外海に21の島々からなり、海洋生物の美しさと、一年中温暖で、透明度の高い海水により、ダイビングポイントとして世界的に有名です。



▼カピバラ山地国立公園(ピアウー州)
Photo by:Editora Peixes



▼サルヴァドール・デ・バイア歴史地区(バイア州)
Photo by:Christian Knapper

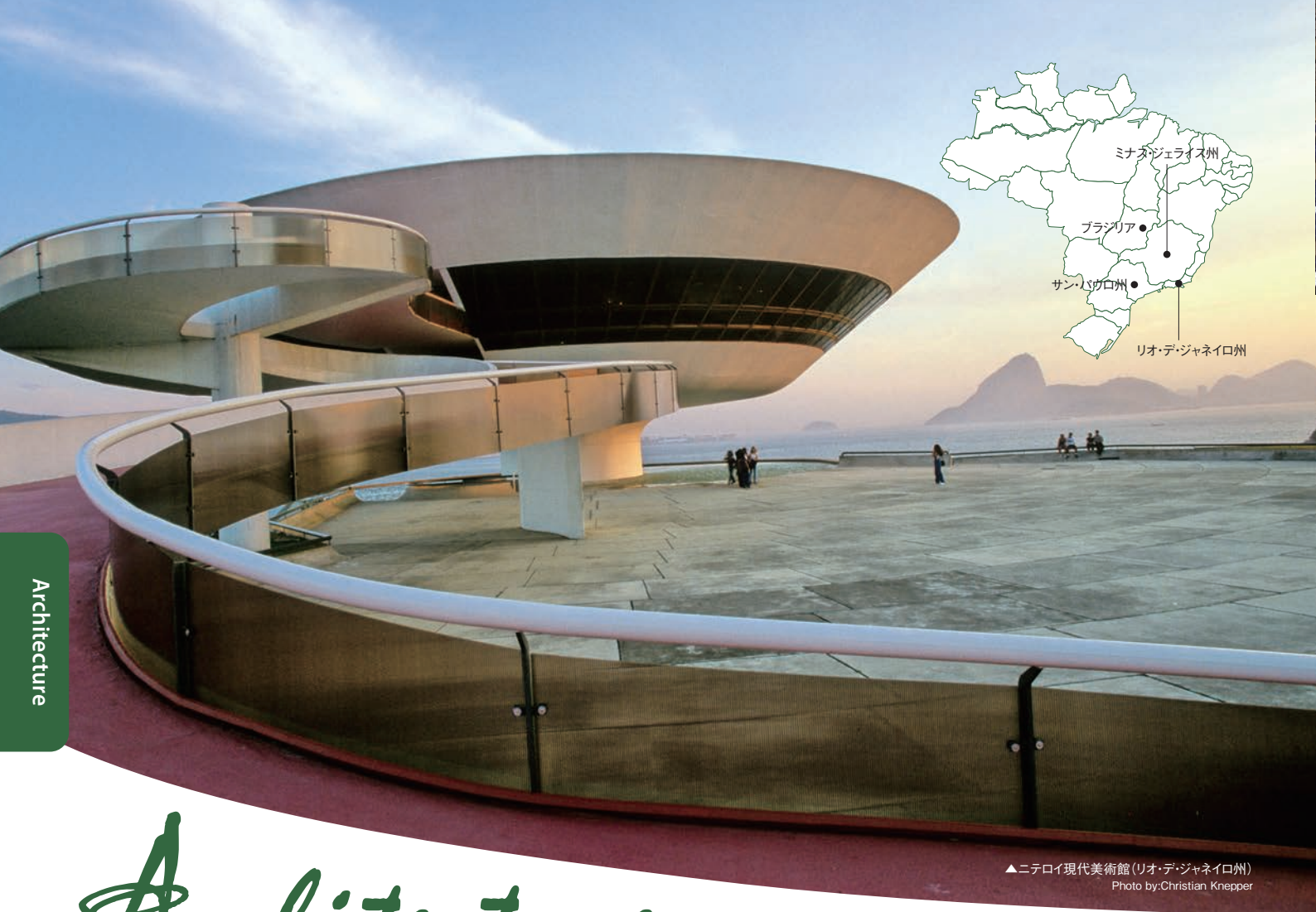


▼オリンダ歴史地区(ペルナンブッコ州)
Photo by:Christian Knapper



▼ボン・ジェズ・ド・コンゴニャスの聖所(ミナス・ジェライス州)
Photo by:Christian Knapper

Architecture



として、ブラジル建築は世界の注目を集めています。1960年代からの都市部の急激な発展は、社会の需要と建築表現の追求という両方を実現させました。その結果、近郊の町に数多くの素晴らしいビルが建てられ、新しい都市も次々と誕生しました。

1940年代初頭以降の現代建築の代表作として、リオ・デ・ジャネイロの教育省ビルやロベルト兄弟の設計によるサントス・デモン空港の旅客ターミナルがあります。他にもリオ・デ・ジャネイロ郊外のペドレグーリオにあるアフォンソ・レイディ設計の低費用の集合住宅やサン・パウロ近代美術館、そして、オスカー・ニーマイヤーにより設計されたペロ・オリゾンテのパンプーリア教会などをあげられます。このように多くの近代建築を見ることができますが、その中でも、アフォンソ・レイディにより設計され、

1950年代に完成したリオ・デ・ジャネイロの近代美術館は傑出した建築物です。

近代建築の中で特に知られているのが、首都ブラジリアです。古都オウロ・プレット市と同様にブラジリア市も世界遺産に指定されており、ユネスコに認められた最初の近代建築作品です。ブラジリアは、ルシオ・コスタにより都市計画が立案され、建築家オスカー・ニーマイヤーにより主要な公共建築物が設計されました。特に、ニーマイヤー設計の「弓の宮殿」(ブラジル外務省建物)は、水の中から高くそびえ立つアーチ形の柱と水の庭園が美しいコントラストを描いています。また、ニーマイヤーの最高傑作と考えられているカテドラルは、まるで祈りが天に届くようにと両手を合わせて上げた指のよ

うな柱が見事な美しさを表現しています。その他にも彼はリオ・デ・ジャネイロのニテロイ現代美術館など素晴らしい建築物を設計しました。

大胆で斬新な建築コンセプトとならんで、美しく調和のとれた都市環境を造ることに目も向けられ、ロベルト・ブルレ・マルクスなどの庭園設計者たちが活躍するようになりました。コンクリートとガラスの構造物と緑豊かな庭園や公園とのバランスが図られるようになり調和のとれた都市環境造りが広まりました。今では、世界的にも有名となったロベルト・ブルレ・マルクスの作品は、ブラジルのみならずアメリカやヨーロッパの庭園や公園でも見ることができます。



ブラジルのコロニアル建築はポルトガルに由来し、ブラジルの熱帯気候に適応してきました。この魅力的な建築様式は、古い都市の教会や修道院で今でも見ることができます。最も壮観なコロニアル建築を見ることができるのは、ミナス・ジェライス州の最初の州都であったオウロ・プレットです。オウロ・プレットは慎重に復元され、ブラジルの歴史遺産として保護されており、1980年にブラジルで初めてユネスコの世界遺産に指定されました。

19世紀後半から20世紀前半にかけて、ブラジル建築はフランスの影響を強く受けました。それ以降の建築は、フランス人のル・コルビュジェやアメリカ人の فرانク・ロイド・ライトなど、海外の革新的な建築家との交流を続けながら、ブラジル独自の様式を発展させてきました。今日では、最も個性的な芸術のひとつ



Culture

ブラジルの歴史は、最初にこの地に定住した先住民民族と、ヨーロッパ系民族、アフリカ系民族、アラブ民族、そして日本人など多民族の融合の歴史でもあります。

もともとあった先住民文化に16世紀のポルトガル植民地化がヨーロッパ文化の影響を与え、その後19世紀の奴隷制度によりアフロ文化が伝わり、奴隷制廃止後の移民受け入れによる多民族文化の流入などブラジルは多様な文化の導入と融合を経験してきました。

結果として、ブラジルの民俗文化は地球上で最も豊かなものになり、多くの文化活動が世界に知られて

います。例えば、バイア州サルヴァドールでよく見られるカポエイラは、アンゴラを起源とする格闘技から発展し、舞踏と武道をミックスした表現法で独自の音楽ジャンルも築いています。同じく世界的に有名なのがブラジル国内で最大に盛り上がるカーニバルです。カーニバルは国内の全ての地域で行われますが、豪華なサンバ・パレードを披露するリオ・デ・ジャネイロのカーニバルが最も有名で、各サンバチームの参加者数は5000人にも上ります。

芸術分野で高い注目を浴びているのがブラジルのアートです。16世紀以降カトリック教会はヨーロッパ風に建築され、装飾も西欧で学んだアーティストが

担当しました。各教会の内装飾で用いられたのが、ポルトガルの影響を受けたバロック様式とロココ様式であり、植民地時代で最も著名な建築家は、アレイジャジーニョ(1738～1814年)でした。ポルトガル王室が19世紀初頭にブラジルに移転してきたことで、国王ジョアン六世はブラジルの芸術活動を推進し、首都となったリオ・デ・ジャネイロ市の近代化計画の一環として「ネオクラシック」様式を導入しました。

20世紀中頃に活躍したディ・カヴァルカンテやカンジド・ボルチナリーの両画家は忘れてはならない世界的に著名なアーティストです。21世紀の現在、トゥंगा、シルド・メイレレスなどの前世代から高く評価されていたアーティストにアドリアナ・ヴァレジョン、エルネスト・ネトなどの新世代アーティストが加わり、現代アートの世界でブラジルは重要な

▼リオのカーニバル
Photo by:Rudy Huloid

Photo by:SPTuris/Andre Stefano

▼古都オウロ・ブレートの教会
Photo by:Markito

▼カンパーナ兄弟の作品
Campana Brothers



▲エルネスト・ネトの作品
"Célula Nave:It Happens in the body of time, where truth dances" 2004, by Ernesto Neto

▼アドリアナ・ヴァレジョンの作品
"Lingua com Padrão Flor" 1998 (花模様)に舌)
by Adriana Varejão



位置を占めるようになっていきます。

ブラジル映画界は、1906年以降から映画制作に携わっています。1953の「カンガセイロ」、1962年の「パガドール・ジ・プロメッサス」で世界の注目を集めるようにまで発展しました。1960年代には、映画の新たなあり方を求め、「シネマ・ノーヴォ」運動が出現します。その運動の第一人者は、映画監督グラウベル・ロシャで、当時のモットーは「頭にアイデア一つ、手にはカメラ一台、、、」でした。1995年の映画「カルロタ・ジョアキナ」でブラジルの映画は再び注目を浴びるようになります。現在、ブラジルは年間90本の長編を制作しており、ウォルター・サレス(「セントラル・ステーション」)やフェルナンド・メイレレス(「シティー・オブ・ゴッド」)など、天才的な監督を世界に送り出しています。

▼サン・パウロ市立劇場(サン・パウロ州)
Photo by:SPTuris/Andre Stefano



EMBRATUR IMAGE BANK

Music



▲ジョアン・ジルベルト
Photo by:P-2 VIBRATION



▼ヴィラ・ロボス
Photo by:Lisa Peppercom



▼昔のコパカバーナ・ビーチ



▼左:ナラ・レオン、右:ヴィニシウス・デ・モライス



▲アントニオ・カルロス・ジョビン



▼オス・カリオカス

リード・フルートを奏でる先住民インディオ、歌を唄いヴィオラを演奏するポルトガル人、軽快なリズムに合わせて踊るアフリカ人—この三者により、ブラジルは音楽の国と言われるまでになっています。ヴィラ・ロボスのクラシックから甘美なボサノバやビートのきいたサンバまで、非常に洗練された質の高い多様な音楽がブラジルで発展しました。

オペラ・クラシック音楽の発展

19世紀後半にカルロス・ゴメス(1836-1869)は、イタリアに勝るとも劣らないオペラを数多く作曲し、特に『イル・グアラニー』は傑出しており、有名な小説『グアラニー族』を題材にして創られ本場イタリアでも絶賛されました。1922年の「近代芸術週間」により、文学や絵画と同様にブラジル音楽にも新しい息吹が芽生え、エイトール・ヴィラ・ロボス

(1887-1959)らは、ヨーロッパに影響を受けながら、ブラジルの民族的なメロディーとリズムを交響曲に活かすことを試み、多くの民族楽器もクラシックのオーケストラに取り入れられました。

ボサノバの誕生

そして、ブラジリアンリズムとして、もっとも知られているボサノバは、1950年代に全盛期を迎えたサンバ・カンソオンに刺激を受けて、リオ・デ・ジャネイロで誕生しました。ブラジルの「サンバ」のリズムとアメリカのジャズが融合して創り出され、物悲しさと、歌詞に重さが置かれた音楽で、その後の新しい音楽コンセプトの代表格となっています。

1958年、作曲アントニオ・カルロス・ジョビン、作詩ヴィニシウス・デ・モライス、演奏・唄ジョアン・ジルベルトという3人により「想いあふれて」という曲が

発表され、瞬間にブラジル全土で爆発的な流行を起こしました。「ボサノバ」が誕生した瞬間です。

1960年代半ばには、「ボサノバ」運動の中から、心に残る歌詞と豊かなメロディーを持つ『イパネマの娘』が生まれ、世界的にヒットしました。この曲により、ブラジルの大衆音楽は世界的に知られるようになり、作曲家アントニオ・カルロス・ジョビンと叙情詩人ヴィニシウス・デ・モライスは一躍世界的に有名となりました。ブラジル高度成長期に希望あふれる輝かしい時代を象徴する幸せな音楽として、ボサノバは世界へと広がり続け、海外、特に日本でも多くの愛好者を持つブラジルを象徴する音楽となっています。いまでは、ジョアン・ジルベルトやアントニオ・カルロス・ジョビンの子供の世代もブラジル音楽界で幅広く活躍しています。

トロピカリズム

1968年の独裁政権時代下、カエターノ・ヴェローゾ、ジルベルト・ジル、ガル・コスタなどが現れ、ブラジルポピュラー音楽の原型を築き上げました。トロピカリズムは、世界共通の音楽(ラテンビートやロックンロール)とブラジル固有のリズムをブレンドしたものとと言えます。この音楽は非常に独創的で、叙情に満ち、理知的で「ボサノバ」よりもテンポが速く、リズム感に溢れている音楽です。

MPB (Música Popular Brasileira)

「ブラジリアン・ポピュラー・ミュージック」の意味。既にブラジルのアイデンティティとなっていたサンバなどのサウンドや技法を受け継ぎ、ロックンロールなどの要素にブラジルの感性や伝統音楽を融合した様々なスタイルの音楽の名称です。基本はロッ

ク中心ですが、広い意味で1960年代以降の流行音楽の全般をさします。ブラジルのロックはマリナー・リマやブリッツ、バロン・ヴェルメーリョ、チタンス、パラマース・ド・スセツ、ウルトラジエ・ア・リゴール、レジアオン・ウルバーナなどのバンドにより確立されました。

各地の大衆音楽

北東部で生まれた「フォホー」。足を踏み鳴らすカントリードダンスに、アコーディオン、フルート、ギター、パーカッションが加わった音楽です。「フレイボ」も北東部で生まれましたが、こちらはエネルギッシュでシンプルな音楽です。リオの「ショリーニョ」は様々な種類や大きさのギターやフルート、パーカッションによって演奏される柔らかなインストルメンタル音楽です。また、世界的に有名な「ランバータ」

はテンポの速い官能的なダンス音楽です。そして、ブラジルの大衆音楽の代表といえば、「サンバ」の魅力的なリズムでしょう。「サンバ」の正確な起源はわかりませんが、3つの異種文化、ポルトガルの優雅な歌と、アフリカのリズムと、先住民インディオの軽やかなステップをもとに、リオ・デ・ジャネイロのストリートで生まれたという説と、アフリカが起源で、パーカッションと手拍子をベースとした「バットゥーケ」から発展したという説があります。

Food



▲フェイジョアーダ(写真左上)、カイピリーニャ(写真中央)
Photo by:Rio Convention & Visitors Bureau



▲バイア州の料理アカラジェー
Photo by:Christian Knepper



代表的な料理

- 北 部：カルルド・バラ、タカカー
- 北東部：ヴァタパー、ムケッカ、アカラジェー
- 中西部：ドゥラードのグリル
- 南東部：フェイジョアーダ、フェイジョン
- 南 部：シュラスコ

「ブラジルという言葉を聞くだけで思わず食欲が湧く！」

ブラジルの多彩な料理法と多種多様に味付けされた料理に触れた人たちが口癖のように言うセリフです。ブラジル料理には、その土地の文化や歴史が詰まっています。

代表する料理として伝統的な「フェイジョアーダ」があります。この料理は、ブラジルの植民地時代に奴隷達が豚の足や耳などを集め、黒豆と煮込んで食べたのが起源です。いまでは、美味しくて誰もが好むブラジル料理の一品です。砂糖きび焼酎とライムで造られたブラジリアン・カクテル「カイピリーニャ」と「フェイジョアーダ」がブラジルでは、最もポピュラーな組み合わせです。

ブラジルでは、訪れる土地の数だけ、多くの料理に出会えます。

北東部のバイア州では、サルヴァドール・ペロウリーニョ地区の道端などでバイアーナ(バイアの女性)達が「ヴァタパー」や「アカラジェー」を調理し売っている光景を見ることができます。この地域では、他にもカルネ・デ・ソル(干し肉)や魚介類を材料とする豊富な料理が数多くあります。

川魚の「ドゥラード」は、ブラジル中西部を訪れたら味わいたい料理です。北部では「アセロラ」、「アサイー」といった熱帯果実や、「トゥクピー」、「タカカー」などを食材とした料理がご当地ならではのです。

ブラジルを旅行する際には、訪れる先それぞれの郷土料理も旅の計画に組み入れてみれば、さらに楽しみがひろがるでしょう。

ブラジルは、美しい風景だけでなく、観光客の胃袋までも魅了するグルメの国なのです。

EMBRATUR IMAGE BANK



▲カニ料理
Photo by:J.Wagner da Silva



▲ブラジル果実
Photo by:Luiz Braga



▼トゥクピー(芋の一種)のスープ料理
タカカー
Photo by:Luiz Braga



▼ムケッカ・カビシャーバ
Photo by:Humberto Capai



Sports

▲2014年のワールドカップ開催地フォルタレーザのカステラオン・アリーナ
Photo by: Portal da Copa/ME/Janeiro de 2013

■ワールドカップ2014 開催12都市



▲カポエイラ
Photo by: Christian Knepper



▼元ブラジルサッカー代表ベレ
Photo by: Luis Paulo Machado Abril Imagens



▲ゴルフ場 (バイア州)
Photo by: Editora Peixes



▲バレーボールでは男女とも世界のトップレベルにあり、オリンピックや世界選手権で優勝もしている。
Photo by: Silvio Ávila / CBV



▲タイナミックで冒険心溢れる川下り
Photo by: Editora Peixes



▲大空を駆け巡るハンググライダー
Photo by: Editora Peixes

ブラジル国民を最も熱狂させるのがサッカーです。ブラジルは、サッカーの王様ベレや元日本代表監督のジーコなど多くの世界的に有名な選手を輩出しています。単なるスポーツではなく、ブラジル文化の一部とも言え、ブラジル人の日常生活に与える影響を議論する社会学者もいるぐらいです。ワールドカップともなれば、ブラジル全国がナショナルチームの試合に夢中になります。ブラジルは唯一ワールドカップで5度の優勝をしている国でもあります。

最もポピュラーなスポーツであるサッカーですが、ブラジルの学校では十分な運動スペースを確保できないため「フットサル」を取り入れました。フットサルはフィールド・サッカーと同じルールを幾つも取り入れながら、狭い運動場でもプレイすることが可能なスポーツです。ブラジル人のサッカー好きが、海のビーチでプレイする「ビーチ・サッカー」や「ソサイエティー（社交）・サッカー」など場所に合わせてプレイできる新しいサッカーを次々と生み出しています。

カポエイラは純粋なブラジル起源のスポーツとされています。カポエイラという名称は、「茂みの間の

空き地」という意味で、奴隷たちが主人に内緒で茂みに隠れて行っていたことにちなんで名付けられました。

カーレースでは、エマーソン・フィッティバルディ、ネルソン・ピケ、アイルトン・セナ、ルーベンス・バリチェロ、そしてフェリッペ・マッサらの有名ドライバーの活躍により、ブラジル人のモータースポーツに対する関心は大いに高まりました。故アイルトン・セナ選手は、3度の世界チャンピオンとレース優勝41回を成し遂げ、その内2回は日本グランプリで優勝しています。毎年、F1の年間レースカレンダーにはインターラゴス・サーキットのブラジル・グランプリが含まれています。

サッカーにひけを取らず、世界で活躍しているブラジルのスポーツ競技のひとつがバレーボールです。男子バレーボールチームは1992年のバルセロナ五輪と2004年アテネ五輪で金メダルを獲得するなどの成績を残し、女子バレーボールチームも2008年の北京五輪と2012年のロンドン五輪では金メダルに輝きました。男女とも文字通り世界最高の強さを誇るナショナルチームを持つ、ブラジルを代表す

るもうひとつのスポーツです。

五輪競技だけではなく、ブラジルならではのアウトドアスポーツが楽しめます。山岳地帯や台地では、ハイキングや登山、ロッククライミングやケイビングが体験できます。陸上のアウトドアアクティビティからウォータースポーツやスカイスポーツなど、自然と一体になって楽しむスポーツは、アドベンチャー志向の人々を魅了してやみません。一方、風景を味わいたい方には、乗馬トレッキングなどや素晴らしいゴルフ場の数々がお勧めです。美しい風景の中でプレイヤーがリラックスしてゴルフを楽しめる近代的なゴルフ・コースが北東部のバイア州から南東部のリオ・デ・ジャネイロ州や南部のパラナ州などに数多くあります。



▼サン・パウロ市
Photo by:Christian Knepper

Business & Event



▼ブラジル中央銀行(ブラジリア)
Photo by:Divulgação



▲サン・パウロ・ビジネスフェア
Photo by:Leonid Streliaev



▼サン・パウロ・ファッション・ウィーク Photo by:+81

南米最大の見本市開催地に成長したブラジルは、同時にビジネスやイベントを対象にした観光産業も急成長しています。その背景には、国際空港の利便性、通信、輸送などのインフラの整備、金融、ホテルなどのサービス産業の充実などがあげられます。もうひとつのブラジルの魅力は美しい景色と美味しい料理、そしてブラジル人の温かい心配りがあります。こうしてビジネスでブラジルを利用する機会は年々増え続け、世界中のイベント・プロモーターが場所を探しにブラジルの広大な国土を駆け巡っています。

会議、シンポジウム、セミナー

都市とリゾート地のホテルやコンベンションの設備、交通インフラは充実しており、国際会議、科学シンポジウム、学会セミナーなどあらゆる分野のニーズに応じられる人材と技術設備が整っています。快適な運営で国際的な会議、シンポジウム、セミナーを成功に導き、その実績とプロフェッショナルな仕事ぶりで、ブラジルのMICE関連の専門家は、国際会議協会 (ICCA) でも高い信頼と評価を受けています。

ビジネスフェア

ブラジルは、南米最多のビジネスフェアの開催地でもあります。サン・パウロやリオ・デ・ジャネイロ以外にも国際イベントが可能な最新設備の会議場やコンベンションセンターをもつ都市が数多くあります。南米の国際ショーウィンドウと呼ばれるブラジルのビジネスフェアから、シューズ、アクセサリ、織物、食品、プラスチック、建設材料、医療機材、航空機など様々な分野でビジネスが世界へと飛躍しています。

ファッション・イベント

世界に注目されているブラジル・ファッションをリードする南米最大のファッション・イベントが、サン・パウロ・ファッション・ウィークです。ブラジルのファッション・デザイナーが一同に集うサン・パウロのファッション・ショーは、世界のファッション・シーンで、最も早いコレクションとして重要な位置を占め、海外から多くの取材やバイヤーが訪れるビッグ・イベントに成長しています。



Photo by: SPTuris/Caio Silveira



Photo by: SPTuris/Caio Silveira



▼クリチバ市の「日本広場」 Photo by: SETUR



Photo by: SPTuris/Wanderlei Celestino

Japan on the Other Side of the Earth

Japan on the Other Side of the Earth

EMBRATUR IMAGE BANK

南半球のニッポン

地理的に両国間の距離が遠いという事実は、ブラジル人と日本人を遠ざける理由とはなりません。日本とブラジルを結ぶ友情の絆は、20世紀初頭、両国政府が日本の農民のブラジル移住を推進したことから始まります。

日本人ブラジル移住の歴史は、781名の日本人を乗せた移民船「笠戸丸」が1908年6月18日にブラジルのサントス港に入港したことから始まります。より良い生活を夢見て、52日間の旅で世界の海を渡った165家族を乗せた笠戸丸は神戸港から出港しました。

戦前、戦後を通じ約25万人（戦前18万人、戦後7万人）がブラジルに移住し、現在、日本人移民の子孫ら

から構成されている日系ブラジル人社会は約150万人にも達しており、日本国外では、最も多くの日本人が生活している国となっています。

一方、1980年代の終わり頃から、多くの日系ブラジル人が日本へ逆戻りを始めました。現在約30万人の日系ブラジル人が日本国内に在住しており、両国の友好関係を更に強くしています。このような理由から、ブラジルと日本の両国政府は、日本人ブラジル移住100周年を記念して、2008年を「日伯交流年」と決めました。今後100年間の二国間関係に新たな友好の種を蒔く機会にしようと決めたのです。

日本人移民は、その他の国々の移民と共にブラジル

社会に大きな影響を及ぼしています。狭い土地を最大限に活用する日本人の知恵は、ブラジルの農業に多くの新技術を導入しました。例えば、土壌を保護するための耕作物のローテーションや水耕法などがあげられます。さらに、大豆などの新たな穀物栽培の導入も手がけました。日本人の貢献は農業に止まらず、「美術」（特に抽象画）、「折り紙」、「生け花」の紹介など文化的にも活動しました。食文化に関しては、米、魚介類、大豆、野菜など、バランスの取れた食生活の重要性をブラジルの人々に伝え、日常生活では、畳、着物、茶碗などの日本文化を紹介しました。日本の武道である空手、相撲と柔道も幅広く紹介され、世界的なレベルに上達するまで親しまれています。

ブラジルと日本